

20 年間のステロイド使用後の全身炎症を経て日常生活が戻った成人アトピーの経過 (41 歳 女性)

症例 ID：001-40-SS | 記録日：不明

1. 診断・治療前経過

約 20 年間、手や背中を中心とする湿疹に対してステロイド外用薬と内服薬を使用しました。症状は眼、首、手、肩、背中などへ移りながら続きました。
ステロイドを使用しない治療を知り、5 月 1 日から煎じ薬と薬湯による治療を開始しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	ステロイド外用薬と内服薬を長期間使用しました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	約 20 年間です。
中止時期	5 月 1 日の治療開始時です。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
5 月・治療 1 か月目	治療開始	3 日頃から顔が赤くなり、全身の落屑、寒気、発汗、不眠、顔の腫れが進みました。
5 月末	生活への影響	体力が低下し、寝込む状態となりました。
6 月・治療 2 か月目	ピーク	39 度近い発熱と感染、全身炎症、浸出液、手足の浮腫が重なりました。
7 月・治療 3 か月目	ピーク通過	体力が少しずつ戻り、午前中に起きていられるようになりました。
8～9 月	生活回復	一日中起きて過ごし、食事作りや自分での皮膚処置ができるようになりました。
10 月	家事再開	家事を行える体力が戻り、体温と体重も回復しました。
11 月	通常生活	睡眠薬なしで眠り、運動靴や革靴を履き、買い物へ行けるようになりました。
治療 11 か月目	経過後	素手で野菜を洗い、入浴してもかゆみが出ない状態となりました。

4. ピーク時期

ピークは、治療 2 か月目の 6 月に、全身炎症、顔と手足の著しい腫れ、浸出液、発熱と感染、手が使えないほどの深い傷が重なった時期です。

5. 困りごと

- 全身の処置とガーゼ交換に多くの時間が必要でした。
- 手が使えず、家事や日常動作を家族に依頼する必要がありました。
- 寝込む状態となり、夫による入浴前後の処置と家事支援が必要でした。

6. 経過のまとめ

治療 7 か月目には睡眠薬なしで眠り、革靴を履いて買い物へ行くなど、ほぼ通常の生活を送れるようになりました。
治療 11 か月目には素手で野菜を洗い、入浴してもかゆみが出ない状態となり、その後はほぼ症状がみられなくなりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。